

家康や三成、家紋あしらった募金箱

甲冑修繕いざ資金集め

関ヶ原観光協会 駅前交流館に来月設置



甲冑の修繕費用を集めるために設置する募金箱
＝関ヶ原町関ヶ原、笹尾山交流館

関ヶ原観光協会は来年から、関ヶ原町関ヶ原の笹尾山交流館にある戦国武将の甲冑の修繕費用を募る。1月4日に、大垣西濃信用金庫が寄せた特製の募金箱6台を同町関ヶ原の関ヶ原駅前観光交流館に設置する。(柴田洋希)

費用を募るのは、徳川家康や石田三成といった関ヶ原の戦いに参戦した武将6人の甲冑。笹尾山交流館で実施している甲冑の着用体験に使われているが、経年劣化が進んでいた。募金箱は地元産の今須杉を使い、地元企業2社がデザインと

製造を担当。お気に入りの武将に投じられるように箱の正面には武将それぞれの家紋をあしらった。

24日に笹尾山交流館で贈呈式があり、同金庫の栗田順公理事長が観光協会の高木清朝会長に目録を手渡し、栗田理事長は「地元のために何かできないかと贈らせていただいた」と話し、高木会長は「寄せられた善意を活用したい」とお礼を述べた。